

1 単元 好きなものを紹介する文章を書こう～『鳥獣戯画』を読む（光村図書6年）～

2 指導の立場

＜子どもの実態から＞

子どもは、説明的文章の学習において、教材文の工夫を手掛かりに自分の主張を文章で表現し、それを互いに読み合い、評価し合う活動を経験している。そこでは、主張とそれを支える事例の関係性に着目しながら、自分の考えを伝えるための工夫を捉えてきた。このような子どもが、「好きなものを紹介する文章を書こう」においても、教材文から伝えるための工夫を読み取り、どうすればより分かりやすく、自分の好きなもののよさを伝えることができるか考えながら学習に取り組めば、言葉への自覚を高め、よりよく言葉を使おうとするだろう。

そこで、単元を構想するにあたっては、次のような教材を設定する。

＜教材について＞

本教材は、絵と文章とを対照して、筆者が何に着目し、どのように評価しているか書かれており、それを読み取りながら筆者のものの見方や考え方、論の進め方のよさを捉えることができる教材となっている。ここでは、より分かりやすく、好きなもののよさが伝わる文章にしようと試行錯誤しながら、よりよい書き方を捉えることが大切である。そこで、「自分が好きなものの魅力」をテーマにした紹介文を書き、どうすればより分かりやすい文章になるか考える場を設定する。子どもは、好きなもののよさを効果的に伝えるために、書いた文と教材文とを比較しながら、よさを伝えるための書き方を捉え、好きなもののよさを伝えようとするだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

＜指導上の留意点＞

- 単元の初めには、自分の好きなものを紹介する文を作成し、自身の考えを伝え合う場を設定することで、好きなものの魅力をより分かりやすく、効果的に伝えるためにはどうすればよいかという課題意識をもって教材文を読み進めることができるようにする。
- 単元の終わりには、単元の始めと同じテーマについて意見文を書く場を設定することで、自分の書いた文章同士を比較し、学習した内容が文章に生かされているか判断しながら、次の課題解決に繋げることができるようにする。

3 目標

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク
- (2) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ
- (3) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

4 指導計画（総時数 10 時間）

次	学習活動・内容	単元の指導上の留意点
一 ②	○ 「自分の好きなものの魅力」というテーマで紹介文を作成し、交流する。 ・主張の伝え方 ・分かりやすい文章の書き方	○ 自分の好きなものについての紹介文を書くことで、魅力を分かりやすく他者に伝えるためには、どうすればよいかという課題意識をもって教材文を読むことができるようにする。
二 ⑦ 本時 2 / 7	○ 4つの学習活動から選択し、学習計画を作成する。 ・課題解決の方法 ● 教材文からより分かりやすく書くための方法を「さぐり」、筆者の伝え方の工夫を捉える。 ・筆者の伝え方の工夫 ○ 読み取った筆者の工夫を基に自分の意見文を「みがき」、より他者に伝わる文章にする。 ・書き表し方の工夫 ○ 読み取った筆者の工夫を基に自分の意見文を「みがき」、より他者に伝わる文章にする。 ・書き表し方の工夫	○ 自分で学習活動を選択させることで、各々の進度に応じた学びを計画し、主体的に学ぶことができるようにする。 ○ 課題を解決するためにどのように文章を読むのかを「さぐる」活動を設定することで、明確な視点をもって教材文を読むことができるようにする ○ 読み取った筆者の論の述べ方や書き表し方を基に、自分の意見を書かせる。そうすることで得た知識を活用して文を「みがき」、より自分の考えを文章に表現することができるようにする。 ○ 新たに書いた紹介文を基に交流させることで、自分が学び、考えたことが適切か「ためし」、評価できるようにする。
三 ①	○ 好きなもののよさを伝える文章の書き方について、自分の書いた文章同士を比較してまとめる。 ・好きなもののよさを伝える書き方 ・文章構成	○ 一次で書いた文章と二次で書いた文章を比較させる。そうすることで、どのような書き方や文章構成が効果的であるか考えることができるようにする。

5 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。 (1)ク)	① 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりし、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 (B(1)ウ) ② 「読むこと」において、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ)	① 粘り強く論の進め方について考えたり、書き表し方を工夫したりして、自分の好きなもののよさを伝える文章を書こうとしている。

6 本時案 ー第二次・2時分ー

(1) 主眼 課題を解決するために何に注目しながら読むかを決め、筆者の伝え方を読み取る活動を通して、筆者の述べ方の工夫を捉え、よさを効果的に伝える方法について考えることができる。

(2) 準備

(3) 学習の展開

学習活動・内容	予想される子どもの反応	指導上の留意点	分
1 筆者の伝え方の工夫を捉えるための読み方について考える ・工夫を読み取るための読み方 ・既習の学習内容	ア 筆者がほめているところに印をつけたら何かわかるかもしれないね イ これまでの説明文は伝えたいことを最初と最後に書いていることが多かったけどこれはどうかな	・ これまでの学習の経験から、どのように読み進めれば課題を解決できるかを考えさせることで、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。	5
2 教材文を読み、筆者の伝え方の工夫について考える ・筆者の述べ方の工夫 ・よさを伝える述べ方	ア これまで読んだことがないような文章構成になっていて序論本論がどこかわからないよ イ 「ページをめくってごらん。」や「そう、きっとこれは」のような述べ方は、説明というより、筆者が感じた鳥獣戯画の面白さを伝えるための工夫という感じがするね ウ 「見事に」や「すばらしい」のようなほめる言葉が多く出てくるね	・ 自分で考えた読み方に沿って筆者の伝え方の工夫を探し、発見したことを交流する場を設定することで、よさを伝える書き方に着目して読み、効果的な述べ方について考えることができるようにする。	35
3 本時の学習の進め方を振り返る ・学習の進め方 ・筆者の述べ方の工夫	ア ほめている言葉を探すことで、筆者が何に魅力を感じているのかがわかったよ イ これまでの説明文と比較しながら読むと、魅力を伝えるための述べ方の工夫がなんとなくわかった気がするよ	・ 本時に行った読み進め方で、どのようなことがわかったのか評価させることで、どのような学習をすればどのようなことがわかり、力が付くのかを捉えることができるようにする。	45

(4) 評価規準と方法

課題を解決するために何に注目しながら読むかを決め、筆者の伝え方を読み取る活動を通して、筆者の述べ方の工夫を捉え、よさを効果的に伝える方法について考えることができたか、ノートや発言からみとる。

<メモ>